

**西東京市市民活動団体等実態調査
報告書**

**平成 16 年 3 月
西 東 京 市**

目 次

調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 調査結果報告書の見方	1
調査結果	2
1 団体の概要	2
(1) 公開の意向	2
(2) 他の区市町村への事務所保有状況	2
(3) 法人格の有無	3
(4) 法人格の取得意向	3
(5) 活動開始時期	4
(6) 法人格の取得時期	4
2 活動内容	5
(1) 取り組んでいる活動分野（複数回答）	5
(2) 特に力を入れている活動分野	5
(3) 団体が提供しているサービス（複数回答）	6
(4) 団体の活動範囲（地域）	6
(5) 市のホームページへの掲載意向	7
3 組織運営	8
(1) 事務所（連絡先）の形態	8
(2) スタッフ人数（常勤有給者、常勤有給者）	8
(3) スタッフ人数（常勤無給者、非常勤無給者）	9
(4) 会員募集の手段・方法（複数回答）	10
(5) 最も効果的な会員募集の手段・方法	10
4 地域社会との関わり	11
(1) これまでの地域社会との関わり	11
(2) 今後の地域社会との関わりについての意向	12
(3) 企業、商店街、地域の組織との関わり状況（複数回答）	13
(4) 活動上の課題・問題（複数回答）	13
(5) 団体の運営・活動の発展に必要と思う行政からの支援（複数回答）	14

(6) 行政からの委託事業としての企画コンペ等制度への参加意向	-----14
(7) ボランティア・市民活動センターの認知状況	-----15
(8) ボランティア・市民活動センターの利用状況	-----15
資料	-----16
1 自由回答集	-----16
2 調査票（西東京市市民活動団体等の実態についてのおたずね）	-----35

西東京市市民活動団体等実態調査

報告書

平成 16 年 3 月

発行 西東京市 市民生活部 生活文化課
〒188 - 8666 東京都西東京市南町 5 - 6 - 13
電話 0424 - 64 - 1311 (代表)

調査委託機関 (株)インテージ 社会開発部・ソーシャルマーケティンググループ



古紙配合率100%再生紙を使用しています
白色度は %です



調査概要

1 調査目的

市と市民活動団体の協働を推進していくための基礎資料を得るため、市内で活動している市民活動団体（NPO、任意団体等）の組織や活動実態をアンケート調査で把握する。

また、調査結果の一部を基にして、市民活動団体等が活動に取り組む際、相互が持つ資源を有効に活用できるようにするためのデータベースの作成を行う。

2 調査設計

（1）対象数：98 団体

（2）調査方法：郵送法（葉書による督促を1回送付）

（3）調査期間：平成15年6月17日～7月1日

（4）回収結果

対象数	回収数	回収率
98	76	77.6%

3 調査結果報告書の見方

（1）調査結果の数値は、回答率（％）で示している。％の母数は、その質問項目に該当する回答者総数、あるいは、分類別の回答者数であり、その数はTOTAL（総数）で示している。

（2）百分比は小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位までを示した。よって、単1回答（答えが1つだけのもの）の回答比率の合計値は、100.0%にならない場合がある。

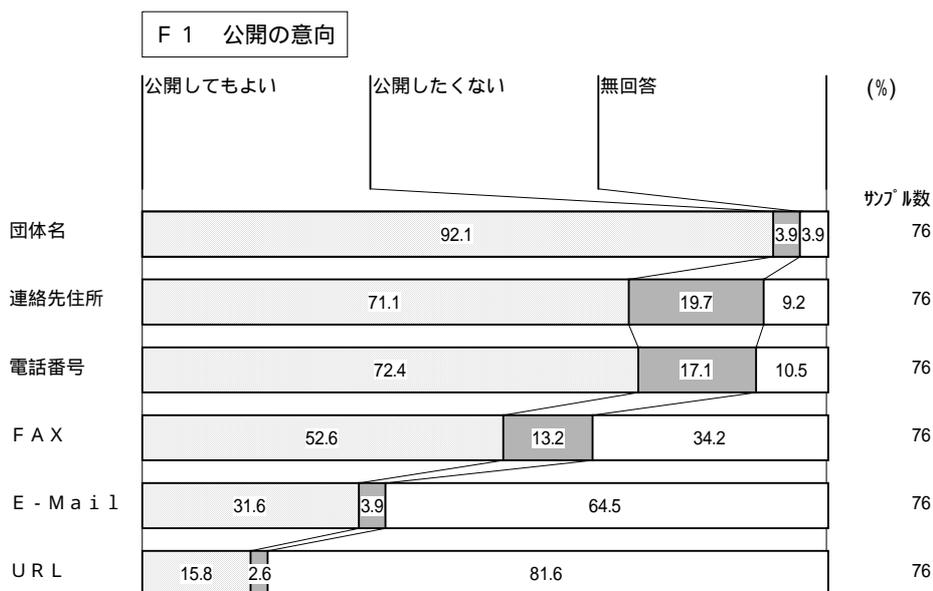
（3）回答比率は、その設問の回答者総数、あるいは分類別の回答者数を基数として算出しており、複数回答（2つ以上の回答を認めたもの）の設問の場合には、百分比の合計が100.0%を超える場合がある。

調査の結果

1 団体の概要

(1) 公開の意向

「公開してもよい」では、『団体名』の公開が9割を占めている。「公開したくない」では、『連絡先住所』『電話番号』が2割弱となっている。

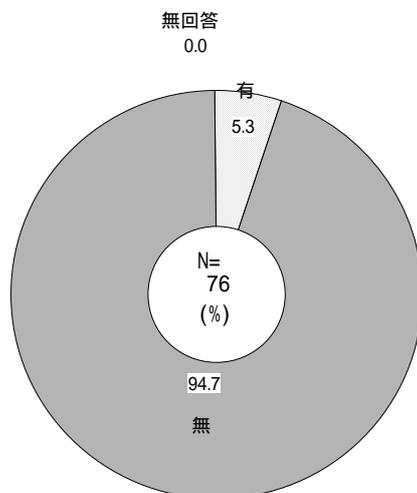


(2) 他の区市町村への事務所保有状況

事務所の保有は、「有」が5.3%にとどまり、「無」が9割強を占めている。

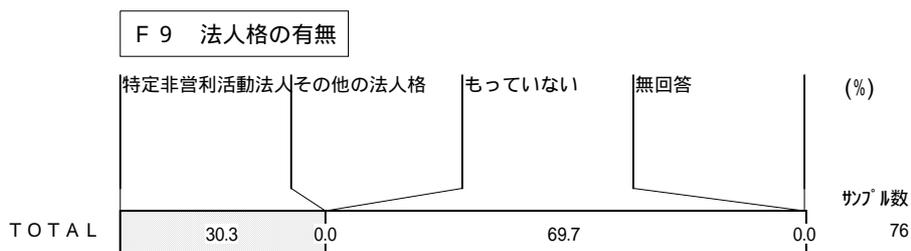
F 8 他の区市町村への事務所保有状況

BD : TOTAL



(3) 法人格の有無

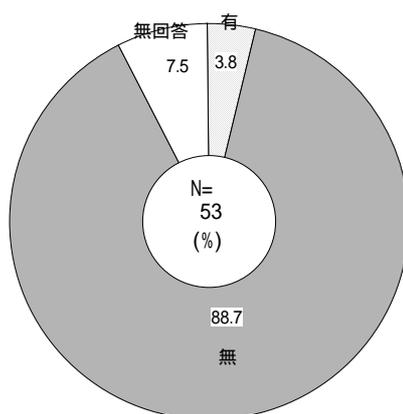
「特定非営利活動法人」をもっているのは3割、「もっていない」が7割弱となっている。



(4) 法人格の取得意向

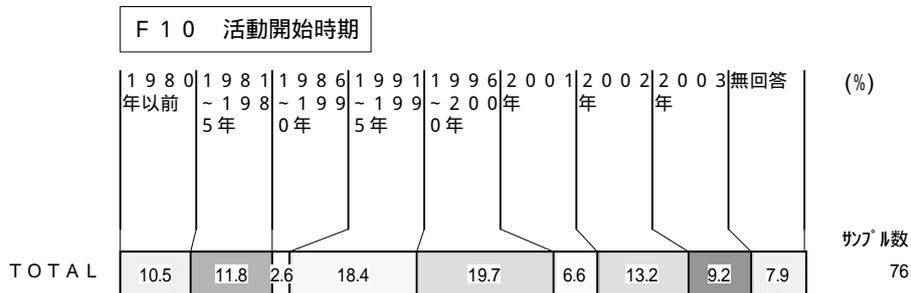
法人格をもっていないと回答した53の団体に法人格の取得意向をたずねた。法人格の取得意向が「有」は3.8%にとどまり、「無」が88.7%となっている。

F 9 - 1 今後の法人格の取得意向
BD : TOTAL



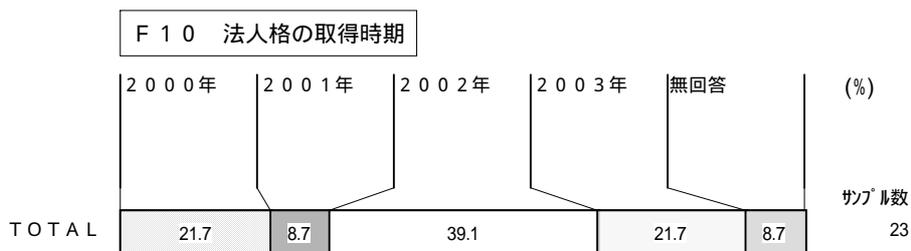
(5) 活動開始時期

「1996～2000年」が19.7%と最も多く、次いで「1991～1995年」が18.4%、「2002年」が13.2%、「1981～1985年」が11.8%と続いている。



(6) 法人格の取得時期

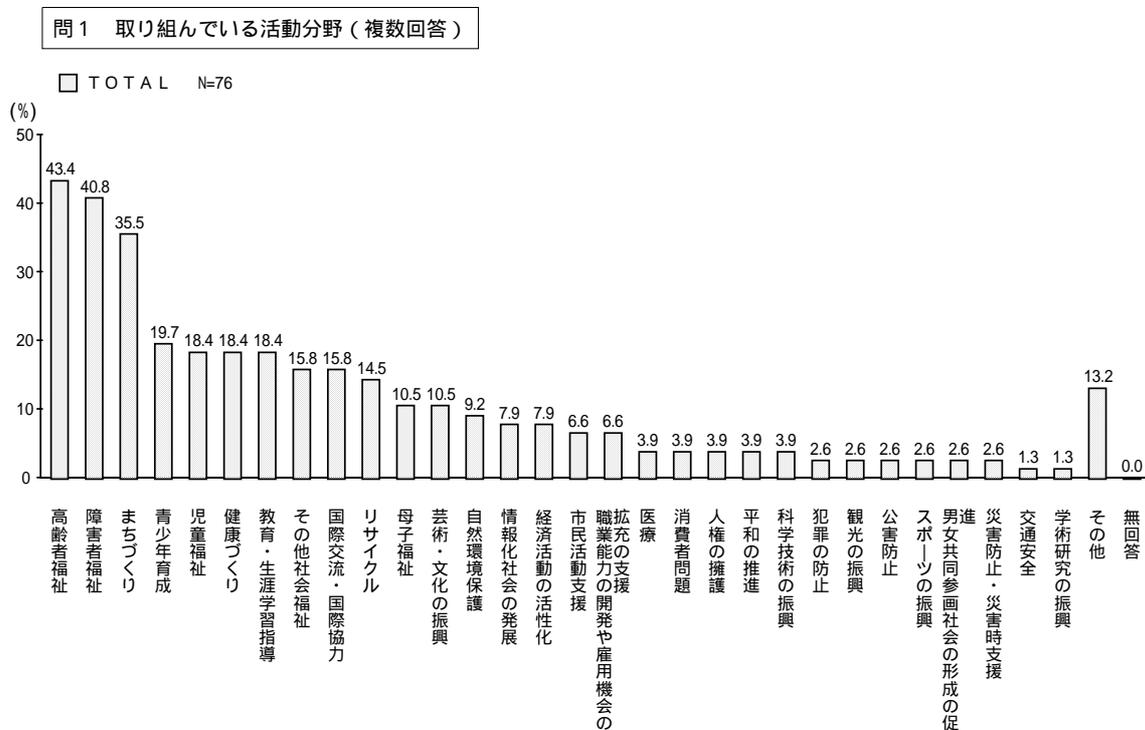
特定非営利活動法人格をもっていると回答した23の団体に法人格の取得時期をたずねた。「2002年」が39.1%と最も多く、次いで「2000年」「2003年」がともに21.7%と続いている。



2 活動内容

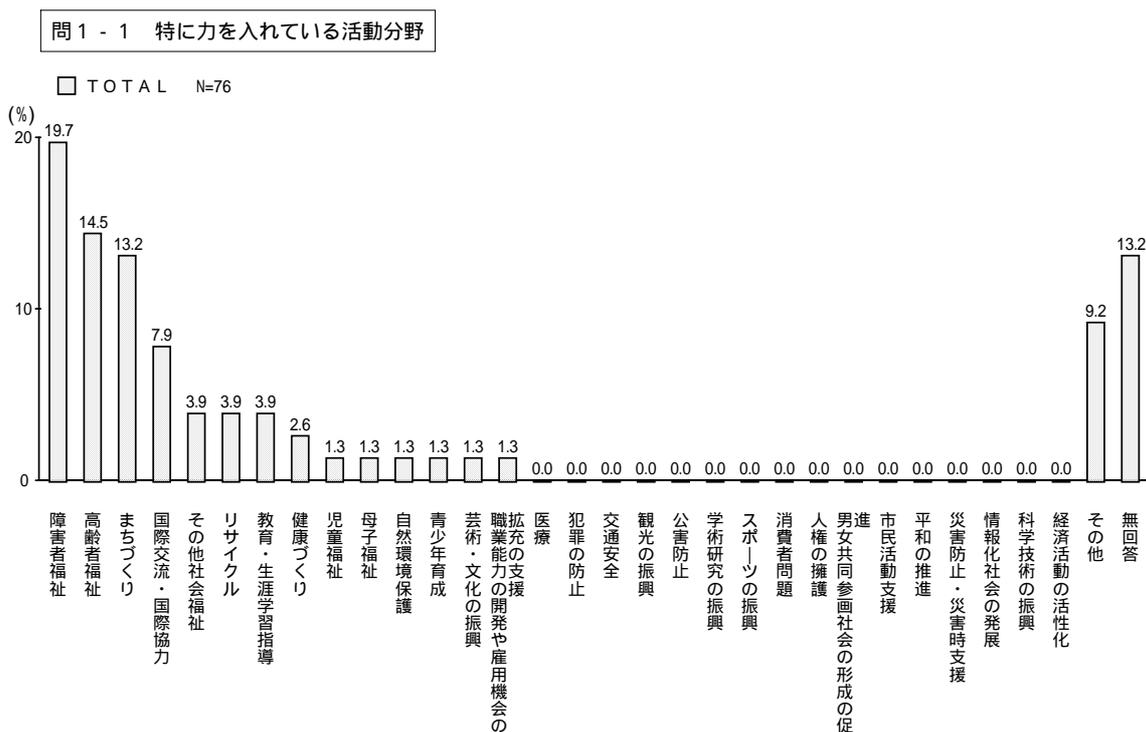
(1) 取り組んでいる活動分野 (複数回答)

「高齢者福祉」が43.4%と最も多く、次いで「障害者福祉」が40.8%、「まちづくり」が35.5%と3割以上で続いている。



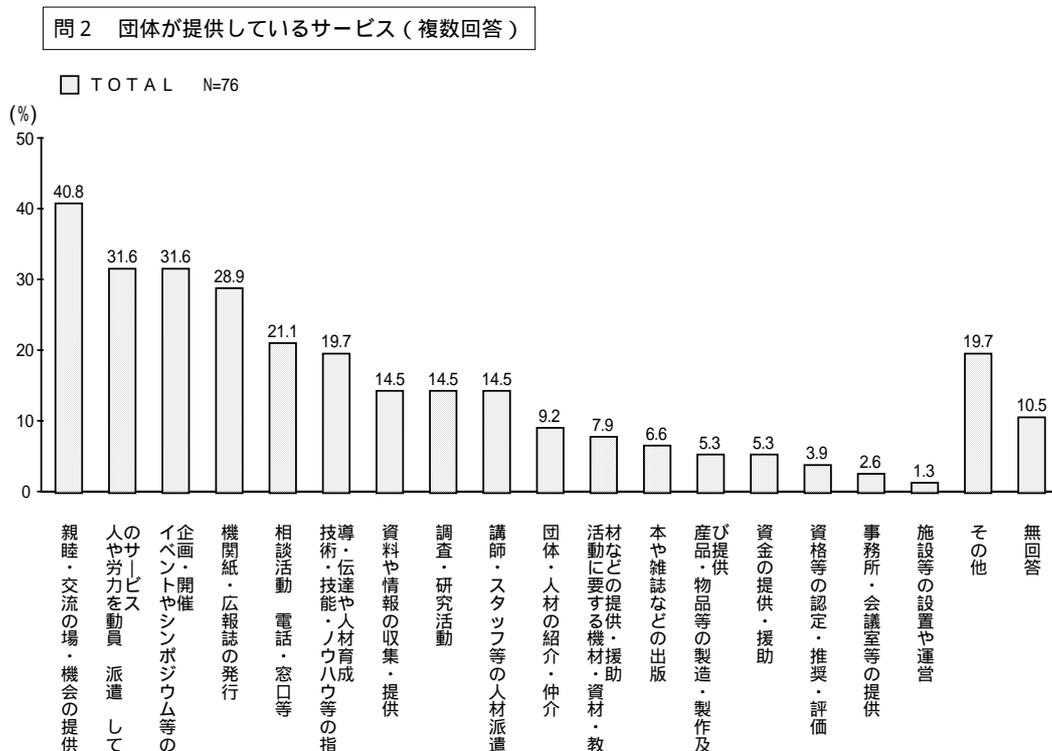
(2) 特に力を入れている活動分野

「障害者福祉」が19.7%と最も多く、次いで「高齢者福祉」が14.5%、「まちづくり」が13.2%と続いている。



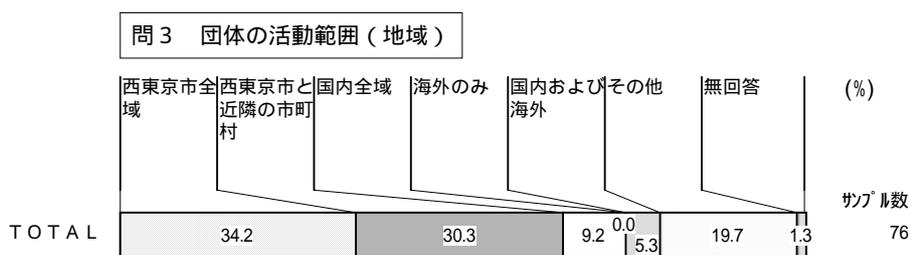
(3) 団体が提供しているサービス (複数回答)

「親睦・交流の場・機会の提供」が40.8%と最も多く、次いで「人や労力を動員(派遣)してのサービス」「イベントやシンポジウム等の企画・開催」がともに31.6%、「機関紙・広報誌の発行」が28.8%と続いている。



(4) 団体の活動範囲 (地域)

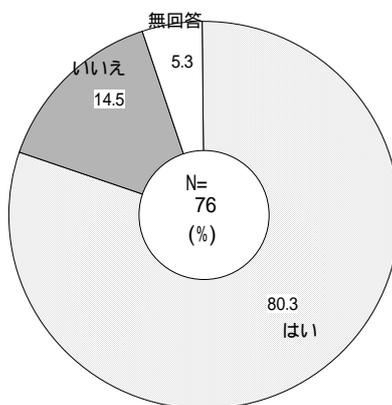
「西東京市全域」が34.2%と最も多く、次いで「西東京市と近隣の市町村」が30.3%と続いている。



(5) 市のホームページへの掲載意向

「はい」が80.3%を占め、「いいえ」が14.5%となっている。

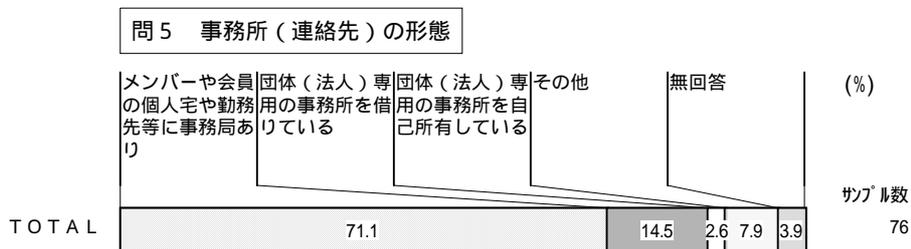
問4 市のホームページへの掲載意向
BD : TOTAL



3 組織運営

(1) 事務所（連絡先）の形態

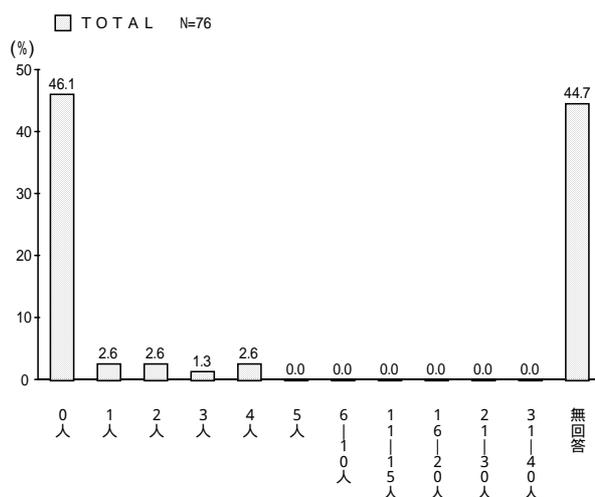
「メンバーや会員の個人宅や勤務先等に事務局あり」が71.1%と最も多く、次いで「団体（法人）専用の事務所を借りている」が14.5%と続いている。



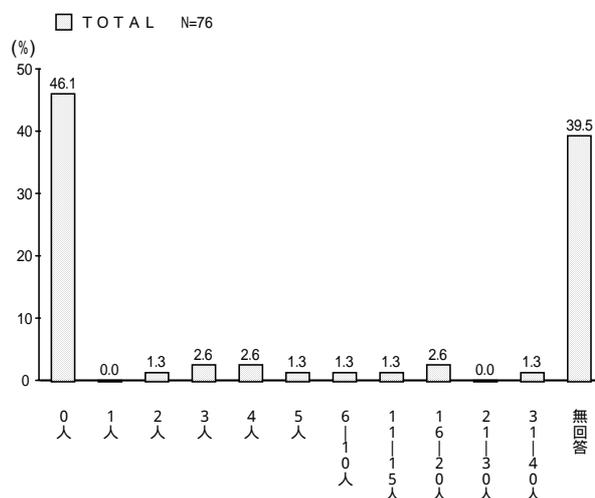
(2) スタッフ人数（常勤有給者、常勤有給者）

常勤有給者は、「0人」が46.1%にのぼっており、「1人～4人」と回答した団体が7団体（9.2%）となっている。一方、非常勤有給者は、「0人」が46.1%にのぼっており、「2人以上」と回答した団体が11団体（14.5%）となっている。

問6 スタッフ人数 常勤有給者



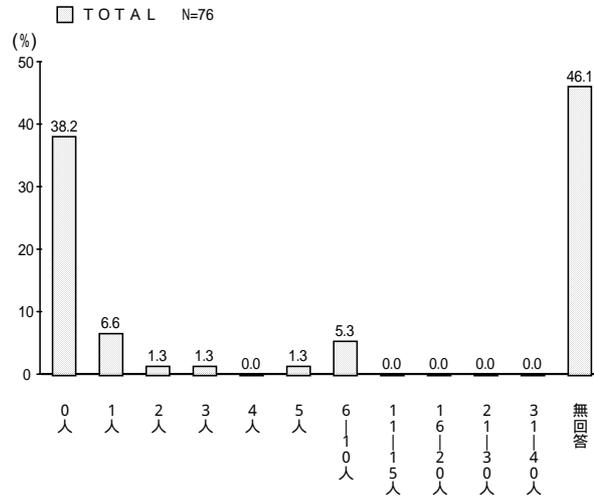
問6 スタッフ人数 非常勤有給者



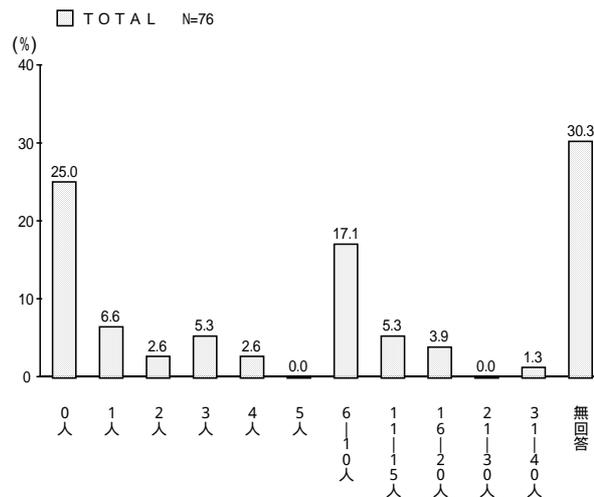
(3) スタッフ人数(常勤無給者、非常勤無給者)

「0人」が38.2%にのぼっており、「1人」が6.6%、「6~10人」が5.3%と続いている。一方、非常勤無給者は、「0人」が25.0%にのぼっており、「6~10人」が17.1%、「1人」が6.6%、「11~15人」が5.3%と続いている。

問6 スタッフ人数 常勤無給者

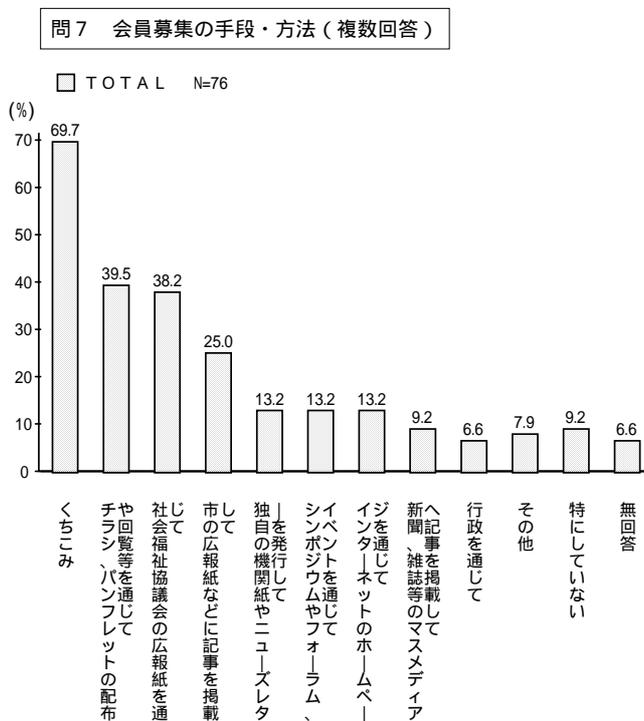


問6 スタッフ人数 非常勤無給者



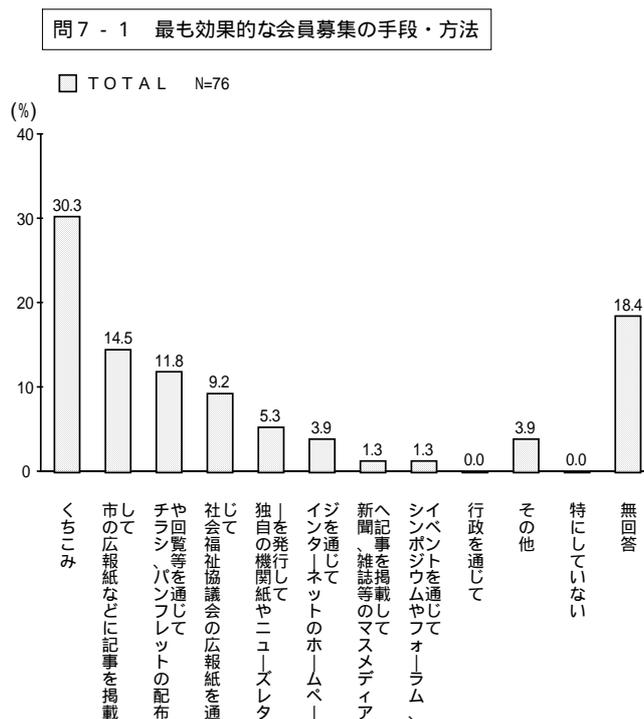
(4) 会員募集の手段・方法 (複数回答)

「くちこみ」が69.7%と最も多く、次いで「チラシ、パンフレットの配布や回覧等を通じて」が39.5%、「社会福祉協議会の広報紙を通じて」が38.2%、「市の広報紙などに記事を掲載して」が25.0%と続いている。



(5) 最も効果的な会員募集の手段・方法

「くちこみ」が30.3%と最も多く、次いで「市の広報紙などに記事を掲載して」が14.5%、「チラシ、パンフレットの配布や回覧等を通じて」が11.8%と続いている。



4 地域社会との関わり

(1) これまでの地域社会との関わり

関わりがある「市」では、『協議や提案』が21.1%と最も多く、次いで『相談や提言』が18.4%、『政策などの提言』『事業の委託』がともに15.8%、『団体発足時の支援』が10.5%と続いている。関わりがある「社協」では、『団体発足時の支援』『相談や提言』がともに36.8%と最も多く、次いで『助成金などの補助』が31.6%、『人材派遣や労力提供』が19.7%、『協働事業』が15.8%、『協議や提案』が14.5%と続いている。

	TOTAL	国・都 ある	国・都 ない	市 ある	市 ない	社協 ある	社協 ない	無回答
団体発足時の支援	76	6.6	43.4	10.5	40.8	36.8	34.2	15.8
助成金などの補助	76	5.3	42.1	9.2	43.4	31.6	42.1	17.1
物品などの支援	76	0.0	46.1	3.9	44.7	9.2	48.7	38.2
人材派遣や労力提供	76	1.3	47.4	5.3	44.7	19.7	43.4	34.2
相談や助言	76	5.3	43.4	18.4	36.8	36.8	34.2	18.4
政策などの提言	76	9.2	42.1	15.8	38.2	6.6	46.1	35.5
事業に対する評価や監視	76	5.3	43.4	6.6	42.1	1.3	47.4	42.1
協議や提案	76	5.3	40.8	21.1	35.5	14.5	38.2	35.5
事業の委託	76	2.6	44.7	15.8	39.5	10.5	42.1	34.2
協働事業	76	3.9	43.4	9.2	40.8	15.8	40.8	39.5
その他	76	5.3	15.8	6.6	15.8	2.6	19.7	67.1

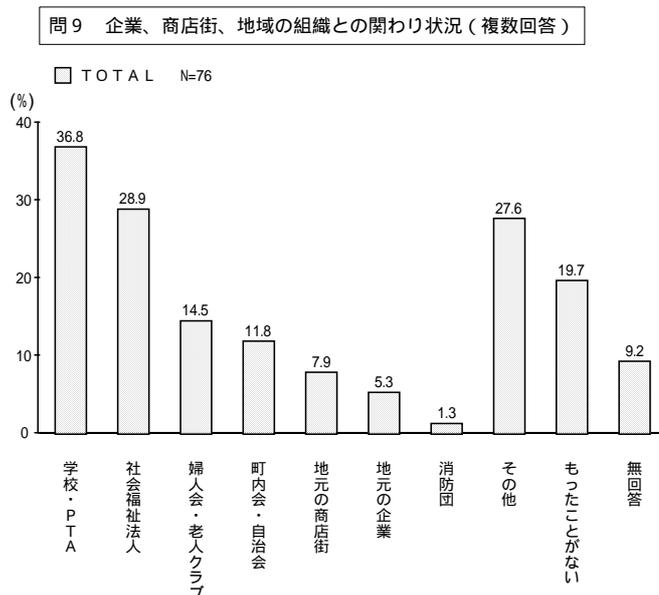
(2) 今後の地域社会との関わりについての意向

「国・都」では、『助成金などの補助』が13.2%みられる。「市」では、『助成金などの補助』が30.3%と最も多く、次いで『協働事業』が19.7%、『相談や助言』『事業の委託』がともに18.4%と続いている。「社協」では、『相談や助言』が22.4%と最も多く、次いで『団体発足時の支援』『助成金などの補助』『協働事業』がいずれも17.1%と続いている。

	TOTAL	国・都	市	社協	無回答
団体発足時の支援	76	5.3	11.8	17.1	77.6
助成金などの補助	76	13.2	30.3	17.1	61.8
物品などの支援	76	5.3	13.2	11.8	80.3
人材派遣や労力提供	76	5.3	13.2	14.5	77.6
相談や助言	76	7.9	18.4	22.4	67.1
政策などの提言	76	7.9	14.5	7.9	78.9
事業に対する評価や監視	76	3.9	7.9	2.6	89.5
協議や提案	76	5.3	17.1	10.5	78.9
事業の委託	76	5.3	18.4	13.2	72.4
協働事業	76	5.3	19.7	17.1	72.4
その他	76	2.6	2.6	1.3	94.7

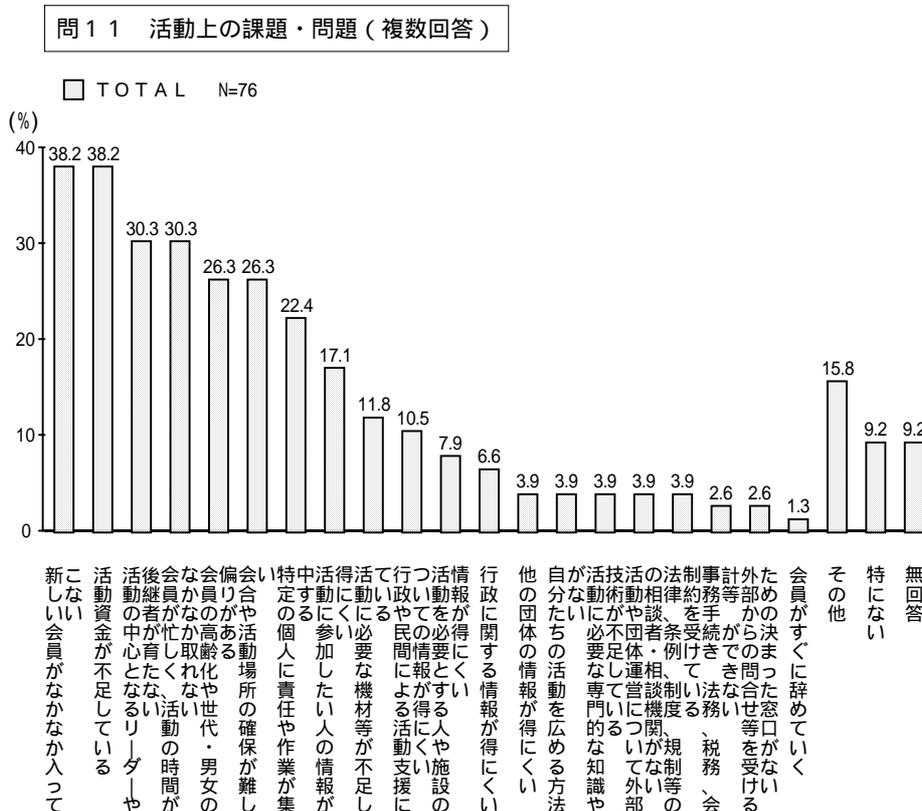
(3) 企業、商店街、地域の組織との関わり状況 (複数回答)

「学校・PTA」が36.8%と最も多く、次いで「社会福祉法人」が28.9%、「婦人会・老人クラブ」が14.5%、「町内会・自治会」が11.8%と続いている。



(4) 活動上の課題・問題 (複数回答)

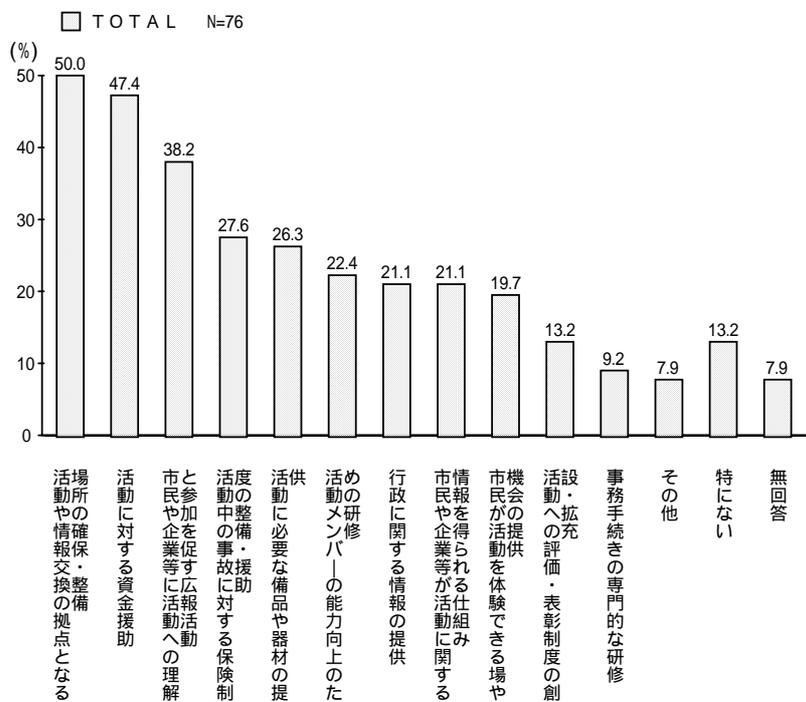
「新しい会員がなかなか入ってこない」「活動資金が不足している」がともに38.2%と最も多く、次いで「活動の中心となるリーダーや後継者が育たない」「会員が忙しく、活動の時間がなかなか取れない」がともに30.3%、「会員の高齢化や世代・男女の偏りがある」「会合や活動場所の確保が難しい」がともに26.3%と続いている。



(5) 団体の運営・活動の発展に必要と思う行政からの支援 (複数回答)

「活動や情報交換の拠点となる場所の確保・整備」が 50.0%と最も多く、次いで「活動に対する資金援助」が 47.4%、「市民や企業等に活動への理解と参加を促す広報活動」が 38.2%、「活動中の事故に対する保険制度の整備・援助」が 27.6%、「活動に必要な備品や器材の提供」が 26.3%と続いている。

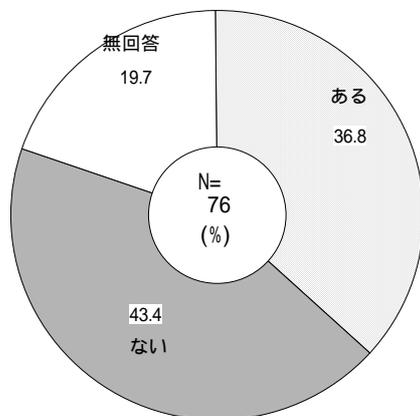
問 1 2 団体の運営・活動の発展に必要と思う行政からの支援 (複数回答)



(6) 行政からの委託事業としての企画コンペ等制度への参加意向

「ある」が 36.8%、「ない」が 43.4%となっている。

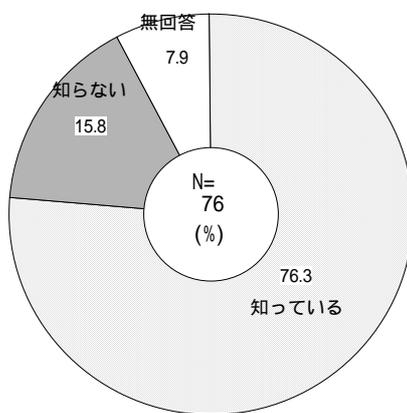
問 1 3 行政からの委託事業としての企画コンペ等制度への参加意向
BD : TOTAL



(7) ボランティア・市民活動センターの認知状況

「知っている」が76.3%にのぼっており、「知らない」が15.8%となっている。

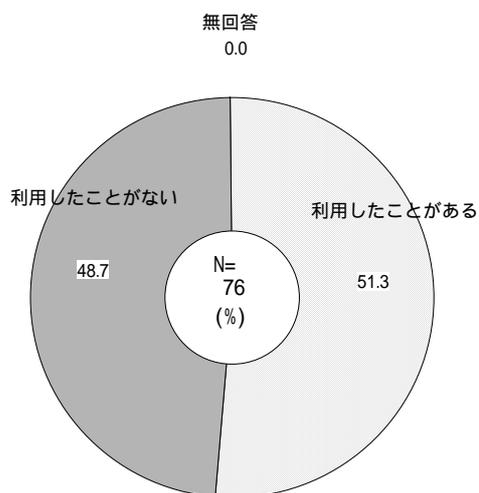
問14 ボランティア・市民活動センターの認知状況
BD : TOTAL



(8) ボランティア・市民活動センターの利用状況

「利用したことがある」が51.3%、「利用したことがない」が48.7%となっている。

問14-1 ボランティア・市民活動センターの利用状況
BD : TOTAL



1 自由回答集

(1) 住民ニーズ

『問 10 貴団体では、これまでの活動を通じて把握した住民ニーズはありますか。あれば具体的にお書きください。』の回答内容から主なものを以下のようにまとめている。

高齢者福祉

- 今、現在、住民ニーズとして感じるというものはないが、10代(18才)~20代、30代~40代、50代~60代。定年退職者などが、ボランティア活動に目を向けていることから、今後、可能ではない(地域の為に何かをしたいという気持ちを持っている方が増えてきた。)
- 「食べる会」(昼食会)は好評で毎月実施してほしいとの声が出ているが会場となる老人憩いの家「おあしす」がなかなかとれず年7~8回がやっとの状況です。個人の趣味と区別して優先的にとれるような仕組みを作ることが福祉につながる活動を発展させると思います。ぜひ、ご検討ください。
- 足、腰の弱ってきた高齢者や弱い高齢者が一人暮らし、あるいは日中は独居なので家に閉じこもりがちの方をたくさん目にしてきました。そういう方達は家でひとりで食事をし、話をする相手も居ない「つまらないよ」「ひとりで食べてもおいしくないよ」と言ってます。「足が悪いので歩いては外に出られないし」
- 設立当初より、公の支援が受けられないが、生活の中で困った時、地域コミュニティが希薄になっている現状の中でたすけを求めている人のニーズを強く感じています。
- 介護保険には、サービスの制約があります。とくに困るのが、体調が悪化し入院した時、入院と同時に介護保険は利用できません。独居の高齢者は、たちまち不安が大きくなるようです。このような時、NPOとして比較的負担の少ない価格でサービスの提供をしています。とても喜ばれています。積極的に活動できる高齢者とは、対象的に閉じこもりがちなお年寄りもたくさんいます。ちょっと声をかけあい、見守りができるシステムがあれば良いと感じます。
- 要介護状態にあっても、旅行などに参加したいと希望がある方が多い。家庭介護者の支援がほしい。安心してあずけられる施設がほしい。ショートステイがコンサートのチケットの予約のようであつという間にいっぱいになる。外へ出る手段がない、利用しやすい外出支援がほしい。ボランティアをしたいがどこに行ったらよいかわからない。ボランティア講座があればいい。

母子福祉

- 子育て中の母親(特に0才、1才、2才、3才児)には友人を作る機会も少なく情報を得る手段もなく、1人で悩んでしまう事が多々あるので、多方向の地域から開催してほしいというニーズはあるが、人員と場所の問題があり、現状を広げる事が出来ない。いつでも気軽に子供を連れて行って友達作りの出来る場所は必要と感じられる。
- 子育て中の母親が、自分の体調がすぐれない時、又、育児に振り回され、心の余裕がなく、い

きづまっている母親に、保育、家事援助を通して又、ヘルパーとの会話の中で、母親に心のゆとりが持てる。

- ピッコロハウスなどの公の施設もあるが、子供の体が弱かったり、双子だったりすると、そこへ連れていくこともできない母親がいます。ヘルパーが入ることによって、心身ともに母親が元気になるようです。

障害者福祉

- 一般の投稿も受けるので、将来は、大きなニーズを予感する。第3種郵便扱いを受け活動を広く紹介して行く。
- 学校を卒業した障害者は、土、日、祝日の余暇をどうすごすか具体的に自分一人で行動できない(又行動半径が狭い)家族が考えなければならない。家から作業所等に通っている利用者(現在15名ほど)家族からはあてにされ、喜ばれている。
- 障害児が就学時、普通学校、養護学校どちらへ入れるべきか迷った時、相談できる場が少ない。もっともっと身近にほしい。普通学校、又は特殊学級に入れたくても、障害の程度により身の世話をする者が付き添わなければ受け入れられず親は勿論、多くのボランティアの手を借りなければならない為大変な思いをしている—何かいい方法はないか?との声。卒後、行き場(授産施設etc)が足りず困っている。施設を増やしてほしい。
- 障害を持つ子どもたちの、放課後の行き場が少ない。特に、市の学童クラブの対象外の子どものための場がない。学校5日制になり、土曜日の過ごし方に苦慮している。家庭が多い。障害があるなしにかかわらず。

健康づくり

- 高齢者の方々に対して、リハビリテーションを行っていく中で、簡単な運動であっても、ご家庭にいと時間を作ることが難しかったり、つい忘れてしまいがちのようで、いつか運動から遠ざかり、慢性疾患などを引き起こしているようです。運動をする場、機会があればやってみたいと思っている方はたくさんいると思います。

まちづくり

- P T Aとの共同調査で通学路の危険箇所(車だけでなく人と自転車との危険箇所等を含む)を三ヶ所程把握し、市の道路管理課へ陳情し、カーブミラー等を取りつけてもらった事がある(二ヶ所設置)。
- 地域の人々は世代を越えて、安全、快適に、お互いに助け合い(理解し合い)地域での生活を続けたいと願っているように感じました。特に、高齢期の方々は、今後の生活(病気等の場合の対処)に対する不安や犯罪の増高を心配しています。P T Aの方々も子供を守ること、自宅の防犯に関心をもっています。

リサイクル

- 住民ニーズは、環境の保全、汚染源の抑制である。そのためには、緑地を残す。分別ごみを焼

却処理に持っていかない。資源化することを求めている。特に迷惑施設周辺の自治会、町内会、近隣住民のニーズである。具体的には、ごみ処理対策として、焼却しないで自区内で資源化をしてほしいと云う、ニーズである。

教育・生涯学習指導

- 今の大人は将来の子どものこと、現状の高齢社会のこと教育、コミュニケーション等について、実は関心と不安があるのだということがわかりました。

国際交流・国際協力

- 日本に住む（短期滞在も含む）外国人の方々（子供、学生、成人）が、日中または夜間に無料で日本語を学べる、日本語を使って会話ができる機会を求めている。
- 日本語を学習したい人が日本語学習を支援するボランティア活動のあることを知る方法や手段がわかりづらく少ない。

情報化社会の発展

- パソコンを購入しないで、借りて技術指導を受けたい。と望む市民がふえている。ある程度、操作ができるようになれば購入してもよいという姿勢。不況のせいと思われる。逆にいえば、無料で使えるパソコンの複数設置が、公民館などに求められている。

（２）活動上の課題・問題

『問 11 - 1 問 11 でお答えになった中から主なものを 3 つまで選び、該当する番号と具体的な内容をお書きください。』の回答内容から主なものを以下のようにまとめている。

「 1 特定の個人に責任や作業が集中する 」

- 特定の人間が中心となり活動しているので、仕事が一極集中してしまう。
- 連絡先の代表の所に、ネットでの問合せ、この様なアンケート色々と対外的な事も全部くるので大変。
- 設立早々の組織には、いわば不可避の事情。
- 特定の個人に責任や作業が集中するので、組織化を推進する必要がある、説得の時間も必要。NPOへの認識が一般の人々に不足している。
- 非営利な市民団体としては、サービス対価も民間に比べ低く設定している。又ボランティアとして活動する場面も多々ある為、活動の理念は把握していても、一人一人の活動時間が少ない為、特定の人に責任や仕事集中している。
- 集合する人数の殆んどが視覚障害者とそのガイドヘルパーのため、ガイドをしない晴眼者に責任や作業が集中する。そのことは納得しているが、お手伝してくれるボランティアさんも高齢化し、60代半ばの若者に集中しすぎる。
- 当会では、責任と信頼を最も重んじる為、活動は私 1 人でやっている。主な理由：苦情者、相談者への対応に長期間を要する。深夜、明け方にも電話がある。同じ話を延々と繰り返し聞く、

人間関係を構築する必要がある。など時間的、精神的な負担が重い事から、積極的にたずさわりたい人がいない。

- 会員そのものが少ないので、作業代表者に集中しがち。
- 現在世話人9人及び1人にお手伝いしてもらって居るが（男2女8）長時間のイベントや会議の参加には日時の都合がつかず特定の個人に集中する役割分担をあるていどはきめて居るが…。
- 代表にあらゆる仕事が集まる。会員の意識の問題だが、代表への依存度が高い。

「2 活動の中心となるリーダーや後継者が育たない」

- 初期メンバーが中心になってしまい、なかなか新しいメンバーが参加できない。私たち自身も忙しくて広報とかが出来ていないのが原因か。
- 障害者（児）の支援に、関わる人材の確保が大変むずかしい。人材確保のよい方法が欲しい。
- 会員の高齢化と共に、くみひも指導ボランティアも高齢となり後継者が育たない。
- 皆が慣れる必要がある。又新規参加者が増えれば、積極性のある人々も増えると考えられる。
- 広域に対応できる形を考えて作った組織の為、理事が都内各地に在住。事務所所在地、西東京での活動が増えているが、その対応する者が限られている。
- リーダーになるには、日中時間に余裕がないとつとまらない。余裕がとれると思われる60代の男性（定年退職者）が家から外に出てこない傾向があり、これがネックになっている。
- 事務処理を担当する事務方と易しく楽しく事故もなくダンスを指導する人の二輪があって成り立つものである。晴眼者で尚且つほどほどの年令の会員、特に市内の会員に不足している。後継者が育つには時間がかかるので、初めから高齢者だと困る。
- 事務局長の後継者が育たない。
- 会員そのものが少ないので、作業代表者に集中しがち。
- 青年リーダーの不足。大学生は就職してしまうとボランティア活動が困難になり、若い社会人は休暇がとりずらく活動に参加できない。
- 口コミ、チラシ等で若い人の世話人（20代、30代）特に青少年育成会に働きかけ参加育成を進める

「3 会員の高齢化や世代・男女の偏りがある」

- 会員募集をしてもなかなか会員が増えず、入って来る人があっても年令が高い。
- 設立して25年経ち高齢化が目立ちます。グループの人間関係もある程度まとまっています。男性会員が少ない。
- 世話人の年令的なバラツキは理想ですが、子育て、就労パート世代の若い人の人材確保は困難です。
- 年齢的に価値観のちがいがあり、共有化が出来ないのではないかと。成長の段階のちがいであると思う。年令にかたよること過去の歴史、経験、体験が若い世代に、実感出来ないのだと思う。歴史を学んでこなかったそこをどう教育現場や地域環境でおぎなえるかではないだろうか。今の親がこの時代の人であるから。
- 会員自身の環境も変わり、グループ全体での活動は、月2回だけなのですが、人員確保が難しいです。

- 現在、男性は1人。高齢の為ケアには入りません。(事務スタッフとしてのみ)女性もある程度子育てが終了した40、50、60才代が中心で働いています。もう少し若い人が多く活動できるようにしたいと考えてます。

「4 会員が忙しく、活動の時間がなかなか取れない」

- 土、日に活動が集中してしまい、平日のフットワークが悪くなる。
- 会員の中で、中心になる人達は今は何らかの役職をもって活動して居る人が多い。そのため、活動が制限されたり、活発に運動出来ないのも、会の活動を一つ一つ行うことで皆がなれて行く事が必要である。
- 活動的な市民は幾つもの団体で活動しており、時間の調整が困難。他方、ひまな人々は容易に参加しない。
- スタッフの年令も発足当時から6才をとりました。又、ヘルパーや民生委員などをしているスタッフは忙しい。
- もっと活動したいが、スタッフのほとんどが仕事を持っている為、なかなか難しい。
- 正会員は皆、働いている為、プライベートタイムでしか活動にかかわれない。
- 非常勤スタッフが仕事を持ち、国内各所に分散しているため活動も打ち合わせも容易でない。

「5 新しい会員がなかなか入ってこない」

- 上げ膳、据膳、お土産付きに馴れてしまっているのが自我の目覚めがないことが原因なのかもしれない。自分の向上に自分自身で考え、行動することが一番大事と思う。例外的弱者のみ行政が救済すればよい。
- 未だ発足して間がないために、新しい会員がなかなか入って来ない。宣伝不足広報不足であるが、広報紙を出すまでには、人材も時間も不足である。
- 若い方(ボランティア)が少ない、ボランティアの高齢化。横の連絡が取りにくい、全大会、交流会でボランティア同志の意見交流の出来る機会を年1回開催して頂きたい。
- 無償、ボランティア活動には、関心がやすい。ボランティア保険が自己負担となっている現状では説得に苦労しています。
- 地域全員が会員と話しているが、世話人として協力してくれる人が少ないが、行事の時は手伝ってくれる人がいる。
- 今の世の中は生活にきびしく、心に余裕が出てこないのだと思います。
- 発足して1年経過したが、1年間は、ボランティア活動も様々で、一つの目的に向かえなかった為、会自体の活動内容も試行錯誤の状態を続けてしまい会員募集に至らなかった。
- 認可、認証を受けていないため。情報を提供する場が限られている。立地場所がわかりにくい。
- ビジター会員は少しずつ増えているが、正会員が、なかなか増えない。会費や寄付金・負担が大きいのが原因と思われるが・・・。
- 募集しても中々入ってこない。募集の仕方が難しい。
- 共感して頂く事がむづかしい。
- スタッフの数が不足している。古くからのメンバーの多くが引越し等でやめてしまい、新しい人が定着しない。

- 市が主催した日本語ボランティア養成講座修了者が2名実習で来てくれたが、定着してもらえなかった。

「6 会員がすぐに辞めていく」(回答無し)

「7 活動に参加したい人の情報が得にくい」

- ふれあいのまちづくり活動の呼びかけチラシ配布等への地域住民の反応がとぼしい。
- 活動したい人と団体をつなぐ機関があればよいと思う。

「8 他の団体の情報が得にくい」(回答無し)

「9 活動を必要とする人や施設の情報が得にくい」

- 市内の視覚障害者の中で、点字を必要としている人(読める人)がどの位いるのか分らない。現在私達の会を利用している人は、ごく少数なのだが、もっと沢山の人に利用して欲しいと思う。
- 施設利用方法などの調べ方がよくわからない。

「10 行政や民間による活動支援についての情報が得にくい」

- 行政はどういう団体にどういった支援をしてくれるのかわからない。
- 具体的な内容がタイムリーに見えてこない(伝わる人には伝わっている。)

「11 活動資金が不足している」

- 大きなパソコンが必要となる。
- 助成金の申請もしている。お金のかからない事業を地道に行うのも良いが、時には大きなこともやってみたい(団体のPRをかねて)。
- ボランティア活動なので、自分達が会費を出し合い教材等を購入、入会金、年会費が高いためボランティアが入会しにくい。
- 現在は参加費とボランティアメンバーの物品の援助でフリーマーケットなどでどうにか必要物品をそろえている。
- 何をするにも無料ではできない。
- 借入れをするにも金利が高いなどの制約がある。
- 社会福祉協議会から年間5万円頂いております。事業を通じて、参加者を増やしたいと考え、荒屋敷公園の清掃ボランティアを7月から実施。20人程集まりましたので、帰属意識高揚のため、同色の帽子でもと検討したが、@700円の予算なし。役員達で拠出予定。
- 会長、理事長のポケットマネーで賄われている現状は長続きしない。せめて赤字にならないようにしたい。
- ボランティアの限界を感じる。パソコン指導者の交通費、連絡費の実費程度を補助して頂きたい。

- 10年間に地道な活動を続けてきて、利用者からも喜ばれ頼りにされているのに、今年突然、補助金をうちきられ困っている。市は学校を卒業した障害者の余暇活動についてどう考えているのか。
- 予算以上の活動をする。10にも関連するが、自弁ですべてまかなくなって来た。後は冊子作成しても、収益事業にまでならない。トントンである。多忙の中の活動のため事務局の活動も現状無償による限界性と云える。
- 社協から補助金を受けているが、活動が決ってしまう。
- パソコンを利用して点訳作業活動中であるが、パソコンの購入経費の金額負担、修理経費など個人負担あり。
- 助成金が得られないため。
- どこからの補助金も助成金も受けておらず、常に資金不足。正会員の資金負担が大きい。
- ノラ猫の問題解決には、資金が常に必要だが、全て個人負担による為、苦情者、相談者が金銭負担をしない事もある。また、支援金が集らない。助成金対象にもなっていない。
- ボランティアリーダーに対し、リーダー会の時の交通費を支給したいができない。トレーニング費用、日常的、系統的に教育する時の講師代等。
- 講師を招いて勉強（音訳の）したいが礼金の捻出に四苦八苦。
- 事業をまわしていくのに、いつも資金繰りに気を使いながら活動している。寄付を集める時間が不足している。
- 教材購入等の大半を会員の私費に頼っている。

「12 活動に必要な機材等が不足している」

- パソコン教室は、ノート型パソコン持参の方に限定されてしまっているため、団体の自由に使えるパソコンがほしい。
- NPOを支援する機能ついて設備投資（備品）が不足。
- 野外活動用具（炊事用具含む）の新規購入、更新をしたいが資金が無いためできない。
- 録音機、ダビング機、カセット・テープ等が不足している。

「13 会合や活動場所の確保が難しい」

- コミュニティセンターの申し込みが複雑である（武蔵野市を使用）
- 現在はグループに対して暖かいご協力をいただき個人宅を毎週の活動場にしています。公的な機関で1日を通すことは現在無理のようです。午前、午後と借りられる場所があれば…。
- 10名程の世話人の打ち合わせ会場ない。主な3～4人の世話人で、自宅で打合せたり、下保谷福祉の入口やフロアでやっています。これから始めたいと考えている、高齢者食事会などの場所も欲しい。
- 我が団体は日本語に不自由な外国籍の住人を対象に日本語学習支援を行うものです。そのために教室（会議室）の確保は必須条件であると同時に対象が対象だけに判りやすい場所であることが重要です。現況はその意味ではるかに遠い。
- 4市の住民による活動のため、交通の便の良いところに集会施設があることが望ましい。駅の近くなど。

- 活動場所の部屋とりが抽選となって活動内容が制約をうけるようになった。
- 現在、二つの教室をもっており、これを一つにまとめられる場所があればよい。従って、教材等も二つの活動場所でそれぞれが持っているという現状は不経済だし、不必要だとも考えられる。
- けやき小学校（旧西二小）校区が活動拠点であるが、新校舎に移った後の校舎どの様に利用出来るのか不安である。
- 福祉につながる活動については場所の確保について行政で優先に対処を考えていかないと、進展しないと思います。どこでも場所とりに疲れています。
- 現在は、場所をかりているが、できれば常設にしたい。
- 事業所としての経営の安定と活動の理念が、たいへん難しいところです。現在の事務所では、日々の事務で手一杯の状況で、たいへん手狭です。もう少し地域活動、事業が展開できる施設がほしい。
- 今は図書館を借りているけどいつどうなるかわからないので場所を確保したい。
- 活動する時、飲食があるため調理場のある場所が活用できると助かります。

「14 自分達の活動を広める方法がない」(回答無し)

「15 活動に必要な専門的な知識や技術に不足している」

- 専門的な知識、技術、有資格者がいないため、一つ一つ他に頼らざるを得ない。
- 日本語を教える技術や、国際交流に対する理解に不足している人への教育の場がない。
- 無料または低廉な講座等が無く学習機会が得られない。

「16 事務手続き（法務、税務、会計等）ができない」(回答無し)

「17 活動や団体運営について外部の適当な相談者や相談機関がない」

- 地域の現場で、実際にノラ猫、苦情者、相談者、住民にたずさわる団体がほぼ無く、知識や経験が限られている。また、行動を伴う協力を行う先は無い。

「18 外部からの問合せや連絡を受けるための決まった窓口（連絡先）がない」

- 責任者（私）が仕事をしているので昼間、連絡がとれない。
- 事業ごとに主たる世話人が担当するシステムでやっている。私宅TELでは、若干支障あり。ご提案とお願い。受信専用携帯TELはないんですか。あつたら2～3台補助物品として下さるとうれしいです。受信専用ですから、経費は少額だと思いますが。

「19 行政に関する情報が得にくい」

- 法務局等の事務手続きがマニュアル化されていないので非常にわかりにくい。
- 3200の地方自治体情報を、各自治体にアンケート等でお願ひしているが、アンケート作業に手間がかかり、回答率も良くない。

「20 法律、条例、制度、規制等の制約を受けている」

- 具体的に起業しようにも規制だらけ。
- 移動サービスは道路運送法 80 条においてグレーゾーン現在、構造改革特別区で、状況が変化するきざし。

「21 その他」

- 市の姿勢は、排他的と思う（聞く耳を持たない）。
- 人材育成するための講師派遣、講座が資金不足のため開催できない。
- グループの課題“傾聴ボランティア”“傾聴”ということの認知度を上げること。
- NPO法人の理念の共有化が人数が多くなったためにむつかしくなっている。
- 役所が閉鎖的。協働を提案しているが、市の役職の知識と協働の考え方がない。自分の手柄にしたいのではないか。

(3) 団体の運営・活動の発展に必要と思う行政からの支援

『問 12 - 1 問 12 でお答えになった中から主なものを 3 つまで選び、該当する番号と具体的な内容をお書きください。』の回答内容から主なものを以下のようにまとめている。

「1 活動や情報交換の拠点となる場所の確保・整備」

- ダンスフロアの利用が簡単に出来るように。
- 公民館を活動場所としている為、抽選にもれた月は、定期的な活動ができなくなり、ジプシーのようにあっちこっち行って場所を探すときもある。
- イベントや会合をする場所が少ない。文化を理解してもらおうと料理教室の企画を行いたくとも、施設が少なくかりられない。
- ボランティア活動だが、芝久保地区会館では、毎週部屋の予約をせねばならず、不便。
- 柳沢地区で現在、老人と子供達とのふれあい茶話会を東伏見コミセンに計画中だが、我々の地区である新町ではこの様な施設がチョット見あたらない。皆が集るためには便利さと広さが必要である（新町の様な細長い地形や老人のイベントと言う事もあって...）。
- 表示がないので活動室が分りにくい。ボランティア活動室を利用させて頂き感謝しております。ボランティア受入れ時に建物の表示がスポーツセンターの塀の所に掲示して頂きたい。
- 現在は児童館を借りて活動をしているが、児童館では行事もありまた乳幼児には危険な所もあるので場所がほしい。
- 活動日が 10 時～3 時・イベントが近づけば都合のつく日に集っています。自由に使える場の確保は難しい現状です。
- はなバスアンケート実施時には、調査項目、手法の決定・様式についての打合せ、約 1,000 枚の集計作業場所に困りました。自宅の一室は完全に物置きとなりました。世話人の打合せ場所、公園清掃のホーキ置き場にも悩んでいます。高齢者食事会場も欲しいです。
- 活動の拠点となる場所の確保（必要時、地区会館などに多目的に利用できる場があるとよい）。
- 常時（土・日を含む）利用できる会議室。

- 一定の活動場所がほしい。また、市内で同じような活動をしている団体が資料、教材の共有ができるようにするのはどうか。
- 場所を優先的にしかも3～4カ月前に確保できる仕組みが絶対必要です。そうでないと計画もPRも出来ない。
- 2ヶ所は個人宅で1ヶ所は、中町分公舎をお借りしていますが、中町分庁舎が工事の為、別の場所を探すのに苦労した。
- 調理場の確保。
- 子育てのサークルは、多くあるのに、なかなか協働できないでいる。拠点があれば、情報交換などができるのではと思う。
- 現在の拠点はスペースが狭く、十分な活動ができていない。活動を充実、拡大する為に、広いスペースが必要。
- 現在の事務所では、地域活動や事業拡大がとても難しい。施設の確保が一番の望みです。公の余裕施設をNPOの活動に、ぜひ利用させて頂きたい。
- 公民館を利用しているので、必ずしも毎回部屋がとれるとは限らない。できれば趣味の会とは別に利用できる施設があると良い。
- 現在西東京市の社会福祉協議会のボランティア活動室を使用させてもらっているが、受講者にわかりやすく、利用しやすい場所で備品等が整備された継続的に使用できる場所を確保して欲しい。

「2 活動に対する資金援助」

- 現在でも様々な補助金、助成金などがあるがその申込や情報が入手しづらい。
- 備品購入や、ボランティアの研修を行う費用がないので、援助してほしい。
- 借入れに関する助成を含めて健全な支援が望まれる。
- 公園清掃は公園側でホーキ、袋等は下さるとのこと、助かります。
- 狛江市方式...駐車場代、車の任意保険、移送保険通信費の補助（NPOを含めた新しい公共交通のための「新規のNPOも受けられる補助」）。
- 活動に必要な交通費、通信費など最低必要な資金援助（世話人の研修など他地域の見聞により規模を広める）。
- 資金援助のむつかしさ、それに依存し公正に使われてない補助金のウワサが流れるなど、税金である以上、公正適正な活用でなければ意味がないと思う。
- 活動用に使用する、パソコン等の購入代金、修理代の全額又は一部補助。
- どこにどのような施設があり、そこを利用する為には、どのような条件や資格が（障害者に）必要で、又そこに至る迄の相談所（窓口）の、公共、民間含めての冊子作りを（各場所地区付きのもの）するための費用として。
- 正会員の資金負担が大きい。何の補助金、助成金もないので、このままでは発展がむずかしい。
- 私達の活動が、地域の中で、必要とされる団体であり、そのために、比較的安価な料金設定をしているが、ご利用者にとっては、特に若い夫婦にとっては、大きな負担と考えられています。社協のファミリーサポート以外にも、私達のサービスに援助がほしいものです。
- 傾聴ボランティア養成講座を継続するための支援。
- 臨時イベント等への資金援助が欲しい。

- 全国の自治体へ調査（訪問）する場合には、交通費の負担が重すぎる。

「3 活動に必要な備品や器材の提供」

- パソコン教室で、小、中学校のパソコンや、公民館でパソコン室があるパソコンをおかりしたい。
- 「ふれあい広場」ののぼり旗1対作りたいが、お金がないので。女房と2人でユザワヤで生地を買い作らせた。1対出来て、2千円弱でした。文字は世話人が書きます。業者は1対3万円とのことでした。（小数割高）
- 備品、器材は可能な限り新しいものを揃えて下さい。
- 調理用具ならびにビデオが欲しい。
- プログラム活動に対する資金（特にボランティアにかかる費用）用具の購入費用。
- パソコンが古く、インターネット回線も満足とはいえない。

「4 行政に関する情報の提供」

- （新設のNPO法人で知識不足もあるが）行政が市民団体に何を求めているか、の具体的ビジョンがわからない。

「5 市民や企業等において活動への理解と参加を促すための広報・普及活動」

- 現在、点訳図書を谷戸図書館に納めているが、視覚障害者のごく一部の人しかそれを知らないらしくて、利用者が少ない。もっと、利用が増えるよう考えてほしい。
- 市報にて、広報していただき、普及できるように希望。
- 活動の場の確保や人材の確保のためにも市民、企業の障害者理解を促す援助をいただきたい。
- 福祉会館のサークルを広報又は福祉会館だよりに掲載して頂きたい。
- NPOの広報、普及は活動の基本ですので、一層の強化をお願いします。
- 移動サービス連絡会が作成したパンフレットのようなものを更新しながら継続的に市民に提供する。
- 企業のかと市民力そして行政の都市政策が新しい活動の場が作り出せたらと特に環境での可能性は、ある様に思う。
- 60代の定年退職した男性を家から外に引っ張り出す、きっかけ作りが必要。遊びでも良いから面白そうな講座でも開いて引っ張り出してほしい。
- （将来的に）ニュースレターを発行し、市役所、公民館、図書館、各地区会館受入企業に置かせて頂くための窓口となって頂きたい。・市の広報紙に記事掲載をお願いしたい（社協含め）・公民館講師派遣事業に参加したい。
- 地域市民や企業への理解を深め、人的援助、資金的援助を求めたい。
- 私達の活動やサービスをパンフレットにしたり、年4回のメールを発行し、メンバーが配付場所、施設の拡大を自力で発掘していますが、市関連施設に、置いておけるようなご配慮がいただけないかと要望します。
- 人の心にも命にも優しい、居住環境や地域環境も改善出来る、人間関係や青少年の育成にも役立つ、有意義な活動として、多くの支援が集る事で、一層その目的の達成に近づき易くなると期

待する。

- ボランティア活動に対する理解と普及。
- 自分たちが行っている活動を広く市民に知ってもらう機会を提供してほしい。
- 市報で出来るだけ多くの団体の記事を載せてほしい。“みんなの広場”をスペースを増やしてほしい。

「6 市民や企業等が活動に関して情報が得られる仕組みの整備」

- 活動場所に看板を設置するなど活動の場所、在所を知らせると同時に、HPで紹介してほしい。

「7 活動への評価・表彰制度の創設・拡充」

- (手弁当、持ちだしてやっている現状です。)お手玉の認定(初、中、上)(初~之段)やお手玉製作し寄付して下さった方への表彰。
- ノラ猫の問題は、市民の日々の生活や地域環境、市民感情、青少年の情操教育などに直結する問題である。地域に貢献する社会奉仕活動としての存在意義が強く、評価、表彰などを通して、身近のノラ猫問題に対して、人の心にも命にも優しい、猫問題の根本解決法を実践し易い環境整備をする事で、ノラ猫問題にたずさわる人口が増加するとの期待が持てる。
- 部署によって活動への評価(協働の意味)が話し合えない。
- 誠実に活動に協力して下さる方の為に。

「8 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助」

- ボランティア保険の援助がほしい。
- 色々活動する時にやはり事故の危険はあるこの心配はなくしてほしい。
- 気をつけていても事故は起きます。保険(ボランティア)はありがたいのですが自己負担ではなく出来れば行政で負担をお願いしたい。
- 保険料自己負担でやっている人が多いので、カバーしてほしい。
- ボランティア保険を社協で払っていただいていたのが2年前から、自費払いになり、市で払っていただければと思う。
- メンバー及びリーダーに対する保険制度に対する資金援助。

「9 活動メンバーの能力向上のための研修」

- 現在も研修は開いてくれてはいるが、もっと多くのボランティアが勉強出来る機会がほしい。
- 当然リーダー養成が必要です。
- 「朗読」という技術をもってボランティアをするので、月1回の学習会をもっているが、行政からの支援によって、メンバーの負担も少なくなれば幸せである。
- スキルアップのための講座を検討することを望む。
- 障害者福祉に携わっていらっしゃる、現場の方、専門家(法律etc)の方に指導を仰ぎたい。
- 実際の保育に直接生かすことのできる内容の研修(手遊びや工作活動など)
- 市民能力のレベルアップをはかる研修。

- 日本語ボランティアの養成講座は引続き行ってほしい。他に、既に活動している人が参加できるような講座もお願いしたい。
- 1 団体で研修するには、費用もかかるので行政が体系的なしっかりした研修をやってもらうとよい。
- 活動しているボランティアの知識や機能の向上を目的とした継続的な講座を開催して欲しい。

「10 事務手続き（法務、税務、会計等）の専門的な研修」

- 事務手続きの複雑さを思うと、行政支援を受ける意欲がそがれます。
- 事務手続きのマニュアル化をお願いしたい。またインターネットで申請できる様をお願いしたい。
- シリーズで、しっかり実践できるものを作ってほしい。

「11 市民が活動を体験できる場や機会の提供」

- 全市、市民のみなさんが、気軽にお手玉の交流(認定あり)体験できる場所の提供。
- ボランティアをしたいけれど、「きっかけがない」という人が、たくさんいると思います。講習会など開き、広報紙でよびかけてはどうでしょうか。
- 私達の活動を気軽に体験してもらえば、もっと利用が増えるのではと思う。

「12 その他」

- 特に、獣医師の理解が欠かせない。同時に、猫の飼育者であるかどうかに関わらず、命に対する思いやりある心は、人の命への優しさにも、命に対する責任意識にも、つながると思う。
- 協働の理解促進。
- 自分達では会員を中々集められないので（社協で）ある程度人数が集るまで継続募集を行ってほしい（自分達のチラシ等を郵送出来る助成金（通信費）をいただいたとしてもどこに送るか難しい）。

（4）ボランティア・市民活動センターの利用

『問 14 - 2 利用したことがある場合、どのような内容で利用しましたか。』の回答内容から主なものを以下のようにまとめている。

活動場所や器材関係

- 毎月に第 1、第 2、第 4 月曜日利用している。切手整理、小物づくり、座布団作りの準備で使用しています。
- 作業所として使った。
- ミーティングを開いている。
- グループ「友」の活動場所として利用させて頂いております。
- 定例会（隔月）をセンターで行っています。
- 勉強のためのお部屋をお借りしました。

- ふれあい町づくり定例会。
- 中町分庁舎が工事中なので、月2回のミニディを（いこいの家）ここをお借りしてやっています。
- ボランの会会合時、部屋をお借りして。
- 会の活動（金曜日の会）で利用している。
- 印刷、移動サービス連絡会事務局。
- 広報ビラ、住民向けのビラ、資料などの印刷時。
- 勉強会、会議の場所を提供してもらい、ロッカーもかりている。
- お部屋の使用。ロッカーを借りている。
- 活動室のロッカーの使用。
- ボランティア活動室の使用。
- 保管箱を借りている。
- 活動に必要な小道具等の保管。

相談の関係

- 運営の相談。
- 必要に応じて指導、助言をしていただく。
- 施設訪問等の場合の相談。

人の関係

- 視覚障害者を紹介していただいた。
- 施設からのボランティアの要請。
- ベビーシッターを派遣してもらった事がある。
- 「ひとり暮らしのお年寄りの昼食会」のアトラクションとして一芸のある方を紹介してもらっている。
- 活動支援の為にボランティア依頼。
- ボランティア体験学習の受入側として参加、当会のボランティア募集をお願いした。
- ボランティアの紹介（2件）。
- ボランティアの募集（2件）。
- サークルの紹介。

企画の関係

- 桜の園（障害者）の食事招待会 50 名位。
- 障害者（児）の外出支援のお手伝いをお願いしました。
- 「日本語ボランティア連絡会」の開催。
- ボランティアセンター主催「保育講座」受講の際。
- ボランティアのつどい、傾聴ボランティア。

資料や情報提供

- 作成したものの受け渡し。
- 夏、体験ボランティア西東京、希望者への資料提供（お手天の会、お箏の会）。

事務手続きや制度関係

- ボランティア保険（8件）。
- 地域の方とともに開く行事に、ボランティア保険を利用した。
- 行政保険の事務手続きのため。

広報の関係

- 団体の宣伝。
- グループ名の掲載（名簿にのせて頂いた）。
- 夏休み子供手話教室の後援名義使用。

（5）ボランティア・市民活動センターへの期待

『問 15 ボランティア・市民活動センターに期待することがございましたら、お書きください。』の回答内容から主なものを以下のようにまとめている。

活動場所や器材関係

- ロッカーを借りていますが、かぎられたスペースなので必要なものが入りきれない。
- トイレを洋式にしてください。
- サークル活動がスムーズに出来る様、活動場所の確保並びに活動諸機材、資材類の補助について配慮願いたい。
- 印刷費用を安くして欲しい。

相談の関係

- 各ボランティア団体の事務局窓口があるといいです。
- 気軽に相談できる窓口を1Fにおくべき。

人の関係

- NPOとしては、人材育成の窓口として期待しています。ぜひ、ご紹介下さい。
- 意欲があり、余力もある人があらわれたら、あるいは探し出して地域に紹介してほしい。
- 人の確保・どんな事にボランティアをたのめるのか、明確に示して欲しい。
- ボランティアの人材確保・育成コーディネート

企画の関係

- 市民が集まりやすい企画を多くしてほしい。

- 市民の能力アップの為の研修、充実
- ボランティア養成講座や、ボランティアコーディネーターの要請講座を実施してほしい。
- 傾聴ボランティア養成講座の継続

資料や情報提供

- 様々な情報（補助金、広報活動など）を定期的に配信して欲しい。
- より広い情報提供の場であってほしい。

広報の関係

- 私どもの地域型の場合（保谷第一小学校区）地域重点のPRをお願いしたい。

センターの機能や在り方

- 今迄の様に、ボランティアと、その利用者との間の橋渡し役をやっていただきたい。
- もっと多くの団体や市民をまきこめるセンターになってほしい。
- もっと広く呼びかけてわかりやすく利用しやすい（誰でも）ようにしていってほしい。現在だと場所しか知らない人には解りにくく、また入りにくいという声も聞いているので。
- 現在のセンターは4Fです。いつでも気軽に行けるセンターにと思います。
- 周知、徹底させ、利用しやすくして下さい。
- NPO間のネットワークづくりの事務局、機能を担って下さい。
- 各地域公民館毎に窓口があると関心ももち又利用し易いと思います。
- 市民に見える様に関心を持たれることが大切だと思います。

（6）意見・要望

『最後に、市へのご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。』の回答内容から主なものを以下のようにまとめている。

活動場所や器材関係

- 中央公民館の地下実習室（特に料理）拡張をおねがいします。男性60才以上の会ですが、希望者がいても設備の関係でお断りしております。
- 器材、品物を保管する場所を要望します。ボランティアセンターが1階にあれば助かる声があり、ぜひお願いしたいです。
- 現在、主たる活動拠点は地区会館です。1．施設の整備（調理設備、老人昼食会などができる）とよい）2．何時でも住民が気軽に利用できる、サロンのようなフロアがあると通りがかりの老人も立ち寄り、又近隣の人々が情報交換のためにも利用できると思いますが...理想かも知れません。3．現在は特定な利用者（趣味の会）が定着しているようにもみられ必ずしも、公平な利用状況とは思われません。
- 活動場所の優先的確保については必ず実現してほしい。
- ボランティア団体が利用できる施設（武蔵野市にあるような）を是非作ってほしい。

相談・窓口・情報の関係

- 空き店舗で、事業を行う為のノウハウなどがわかれば教えてほしい。商工会と団体とのかわりなどでのアドバイスがほしい(企業とのかわりなども)。
- 何か1つの事をしようとする、どこの課へ行くのか分りにくい時があり、また社協や、ボランティアセンターでも同じような事をしているので、分りやすく窓口を1つにするか、広くするなら責任の所在をはっきりさせてほしい。
- 障害者のことは、プライバシーの保護のこともあって、私達には教えていただけないのかも知れませんが、市の方から、視覚障害者の方に「こういう会があるから、点訳してほしいものがあったら、云ってほしい」という様に、会の存在だけでも知らせて下さると、有難いです。
- 現在とりくんでいる団体もありますがまだまだ……。今月のイベント情報一覧。夏休み小、中、高、社会人、便利(子ども対象、大人、高齢者対象など。)
- 植林ツアーを設けるなどした時に、情報を市民に伝える手伝いなどをしていただきたい。

事業の関係

- 従来田無市として一同に会していた「70才以上ひとり暮らし老人との会食と懇談会」は多くの方に出席しやすくという配慮から小学校通学区域に設けられた「町づくり住民懇談会」に委嘱され4年目になる。ファミリーたなし(田無小学校通学区域)の場合参加者が他地区より多く、ひとり暮らし70才以上の参加者70名前後お世話役15名、イベント関係者10名程位おり昼食も約100食分用意している。この予算が一率90,000円となっていると食事の内容に大きな差が来ていますので一率を見直すべきだと思う。
- 子どものサッカー場、野球場、中学生の交流の場所、さらに犬のドッグラン。(ペットと人間の良い環境)(場所指定) 在宅で自分自身の健康保持に気をつけて、がんばってくらしている高齢の方々へ、はげましの意をこめたプレゼント(例、お花、お手玉、タオル……) 子ども(例小、中、高)の奉仕、ボランティアなどの体験の機会紹介、今そしてこれから(将来)をみつめて税の使い方を工夫してほしい。
- NPOを含めた「新しい公共交通機関」を共に検討していきたいです。障害福祉課に6/23(月)提出した提案文書、同封します。
- 市内でも犯罪が起き心配です。安全できれいな市になってほしいです。そのためには、「市民パトロール隊」という様な団体(?)を作りあげ、パトロールをし、細かく言えば、歩行喫煙者、ごみのポイ捨て、タンつばを吐く人に注意できる人を養成してほしいです。本来は、行政でやるべきです。安全な町づくりは、障害者、高齢者にとっても望ましい事だと思います。
- であいステーションがやっている「いこいの家」は3ヶ所です。スタッフは11人、利用者は25人で丁度良いです。けれど参加したい高齢者はたくさん居て断っている状態です。市の方でいこいの家を増やしたいのであれば、スタッフを募集し会場を確保しなければなりません。そのスタッフがいこいの家がやれるように、であいステーションの2~3人のメンバーで人材育成やノウハウを伝えることができます。これを予算枠内で委託事業としてやってくれということならばです(コーディネーターをボランティアでやってくれといわれても少々無理です)。
- 認可、認証の枠を広げ、中々認可の取得出来無い施設に対し、東京都や市からの援助を求めま

す。

- 現状に対して、不満があっても、前向きに対応をしなければ、容認、放置している事にもなる…。居住環境の変化などに伴い、ノラ猫（捨て猫など）の行き場が無くなり、トラブルになるケースも出て来ている。人や社会の責任によって、増やされてしまったノラ猫を、殺処分や駆除しないで欲しい。人の責任と知恵を優しさによって、人の心にも命にも優しい、最も有効な根本解決法を採用して、ノラ猫を減らして行ける為の、諸環境の整備、諸支援や諸政策の実施をして欲しい。
- 1 .市内及び近郊に在住または滞在する外国人に対する日本語教育をボランティア任せにせず、社会教育充実の視点でボランティア活動を物心両面で支援して欲しい。2 .市主催の日本語ボランティア養成講座修了者が、受講だけで終わりボランティア活動にほとんど参加していないようだが、むつかしいことだとは思いますが受講者の選考に際し、より活動参加の意欲を持つ人を選考するとともに、講座終了後のフォローも必要ではないだろうか。3 .多くのスタッフ（会員＝ボランティア活動参加者）の確保をめざしているため会費を低く抑えているため教材等の購入も会員の私費に頼っている状況にある。教材購入等のための補助金の受付か、図書等教材を市が購入して貸与するなどの支援を望む。また、可能ならばロッカー等備品の貸与も。

意識や協働の関係

- 市のNPOへの接し方に工夫し、親しみやすいものにして下さい。頭から説教調の市職員の意識改革が必要かも。
- 市の職員のNPOに対する意識改革をお願いします。
- 市の中でたとえば子育てなどは、子育て支援課だけではなく、いろんな課が関わってくると思います。今までのような、縦割りではなく、協働して欲しい。
- NPOとして地域活動を進める上で、行政とのつながりは、とても大きいものと思っています。私達も、地域の中で、孤立化しない、コミュニティが活性化できるよう努力していく所存です。そして、NPOが市との共同作業を出来ることを強く望んでいます。今後ともNPOを育てて頂くことをお願い致します。
- 全体に活動団体の要望を聞くことが主のような気がしました。これから協働を進めるにあたっては、協議があって始めて協働が進むと考えます。この中には単に行政側がNPOに何をしてあげたらいいの...という要望だけをアンケートしているように感じました。今後第三セクター（財団や社協など）との協働をすすめる場合の市の方針のあり方の整理が必要だと思います。
- 合併前に、市民から、いろいろ意見を聞いたことがある。ハナバスは、その中の提案の一つ。市民の手で出来る「まちづくり」の意見はいっぱいある。みんなが参加して「まちづくり」を行うために、市は、意見を聞く窓口を市長直結でつくるべきだ。そして、市民と行政と協働して、その意見の具体化を図るようにしてほしい。そのときは、市報で呼びかけ、そのテーマについて広く市民の参加を呼びかけたらよい。「市は、みんな意見を聞くよ」という態度を示してほしい。

広報・PRの関係

- 現在、私達は、谷戸図書館を活動場所として、使わせていただき、又、作成した点訳図書については、点訳料を頂戴しています。お蔭様で何の心配もなく活動に専念出来て、大変恵まれていると、会員一同感謝して居ります。折角、時間と費用を使って作ったものを、もっと沢山の人の

知っていただきたいのです。

- 市長さん次下各セクションも一生懸命やって頂き感謝しています。私ども、新設・弱少団体は市役掲示板は有効な地域PR手段です。しかし、現在の掲示板は特長なくあまり読まれないとも聞きました。全国初めて一と言うような異色の掲示板を考案して下さい。人が通ると声かけをしたり、「コンニチハ」なんて。質問すると返事したり、色、形、音等使ってビックリするような掲示板 - たのみます。
- 毎月1日15日に発行される広報西東京(市報)は色々の情報が収集できるので枠を広げて活動団体を紹介してもらいたい。
- 市に対しては、会の活動の広報支援をしてほしい。

願望や事情など

- こういうアンケートを行うのは大変いい事だと思う。市内には国際協力で活躍してる人が多くいるのでどんどん私たちをつかってください。
- 私達は10年間続けている草の根の国際交流が、近い将来少しでも世界平和の役に立てば...と念じつつ、黙々と活動をやっていくつもりです。このアンケートが役に立ってくれる事を願います。
- 市といっても、そこに存在する人である。本当にこの町を良くしていこうとする意志と、市民の意志(市民にも種々あるが)すくなくとも前向きに、自分の町を愛せる人の意志がどう合体出来るかということでは、ないだろうか。そんな頑張る人の出現を持ちたいですネ。お互いやる気が、うまれると思います。ずっと住みつづけたい様な町をつくり出すために。
- 障害を持つ子どもたちと共に、暮らしやすい「まち創り」を目指し、日々活動しています。障害は「害」ではなく「個性」です。その個性を尊重し、育みつつ、地域社会の一員として、イキイキと暮していける「まち」、そんな「西東京市」であってほしいと願っています。
- 西東京市に育った青少年達に、ノラ猫の命を通して、命への優しさ、弱者をいたわる思いやりある心を、責任意識を伝えて欲しい。私たちの市、社会、国家に生まれていく為にも、長期的な視点に立ち、ノラ猫問題を是非考えて欲しい。地域社会の責任は、連帯責任だと思いますから...
- まちづくりは、行政と市民(社会人)とが協力して、育ててくる子ども環境づくりが一番大事だと思う。子どもは幼児から活字で、学習教室で学ぶより、行政や市民の大人の態度や心くばりの自然から学びとる力が大きいことを感じます。自然体験学習は自然のしくみの中に潜んでいる声、心を感じて、人として成長するものだと思います。この様なことから東大農場跡地は子どもという生きもの、生命を育てる場にしましょう。
- 意見を聞いたら、まとめを公表し、出来ることの順位を決めて一つずつ実行してほしい。
- グループ結成24年目となりましたが、時代の変化と共にやれる事が少なくなりました。
- 毎年一回市長の市政報告会を開いています。
- 今回アンケート用紙をいただきましたが、私たちの勉強会は手話の技術向上のための会です。会としてボランティア活動をするというよりも会員ひとりひとりが手話の技術を向上させることを目的としています。その上で会員の意志によって福祉への参加資格の取得などの足がかりの場となればと思っております。

2 調査票

西東京市 市民活動団体等の実態についてのおたずね

【ご協力をお願い】

日頃より、市政につきましては、格別のご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

このたび本市では、市民活動団体の意識や実態を把握するための調査を実施することになりました。

この調査は、市と市民活動団体の協働を推進していくための基礎資料を得るために行うものです。また、調査結果の一部を基にして、市民活動団体等が活動に取り組む際、相互が持つ資源を有効に活用できるようにするためのデータベースの作成を予定しております。

今回の調査にあたりましては、市内で活動するNPOやボランティア団体、約100団体を対象とするものです。

お答えいただいた結果は「西東京市プライバシーポリシー」を遵守して取り扱いますので、ご記入いただいた内容が他に漏れることは絶対にありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ありのままにお答えくださいますよう、ご協力をお願い申し上げます。

平成15年6月

西東京市長 保谷 高範

【ご記入にあたって】

- ご記入は、鉛筆、ボールペン等何でもけっこうですが、黒か紺色でお願いします。
- 回答は、当てはまる番号に○印をつけていただく場合と、数字等を記入していただく場合があります。
- 回答する際、該当する選択肢が無いこともあります。その場合は「その他」の()内に具体的な内容をご記入ください。
- 回答の結果、(矢印)の回答肢に該当した場合は、その指示に従って最後までお進みください。
- すべての記入が終わりましたら、回答もれがないかどうかご確認ください。
- 恐れ入りますが、同封の封筒にて7月1日(火)までにご投函ください。切手は不要です。

【お問い合わせ先】

担当 西東京市役所 市民生活部 生活文化課 生活文化係

〒188-8666 西東京市南町5-6-13 ☎ 0424-64-1311(代)内線1425

はじめに、貴団体の概要についておたずねします。

		公開の意向をお聞かせください。
F 1	団体名(フリガナ)	1 公開してもよい 2 公開したくない
F 2	連絡先住所 〒 -	1 公開してもよい 2 公開したくない
F 3	電話番号： ()	1 公開してもよい 2 公開したくない
F 4	FAX： ()	1 公開してもよい 2 公開したくない
F 5	E-Mail：	1 公開してもよい 2 公開したくない
F 6	URL：	1 公開してもよい 2 公開したくない

F 7	記入者氏名	記入者の団体における役割(例：事務局長、世話人等)
-----	-------	---------------------------

F 8 貴団体の事務所は他の区市町村にもありますか。(印は1つ)

1	ある	2	ない
---	----	---	----

F 9 貴団体は法人格をもっていますか。あてはまるものをお答えください。

(印は1つ)

1	特定非営利活動法人	3	もっていない
2	その他の法人格()		

F 9 - 1 今後の法人格の取得意向をお聞かせください。

1	ある
2	ない

F 10 貴団体が活動を始めた時期をご記入ください。また、法人格を有している団体は、法人格取得の時期もご記入ください。

活動開始時期：西暦_____年	法人格の取得時期：西暦_____年
-----------------	-------------------

活動内容についておたずねします。

問1 貴団体で取り組んでいる活動分野は何ですか。次の1～31の中からお選びください。
(○印はいくつでも)

1 高齢者福祉	17 スポーツの振興
2 児童福祉	18 青少年育成
3 母子福祉	19 芸術・文化の振興
4 障害者福祉	20 国際交流・国際協力
5 その他社会福祉	21 消費者問題
6 健康づくり	22 人権の擁護
7 医療	23 男女共同参画社会の形成の促進
8 まちづくり	24 市民活動支援
9 犯罪の防止	25 平和の推進
10 交通安全	26 災害防止・災害時支援
11 観光の振興	27 情報化社会の発展
12 自然環境保護	28 科学技術の振興
13 公害防止	29 経済活動の活性化
14 リサイクル	30 職業能力の開発や雇用機会の拡充の支援
15 教育・生涯学習指導	31 その他(具体的に)
16 学術研究の振興	

問1 - 1 特に力を入れている活動分野は何ですか。
問1の中から該当する番号を1つだけご記入ください。
また、下記に活動内容等を具体的にお書きください。

番号

活動内容	対象	実績	予算規模(円)
例) 川の生態系を維持するため、清掃を行ったり、定期的に観測を行っている。	幼稚園児から高齢者まで、性別を問わない。	月に1回程度の開催。	年額100万円

問2 貴団体の提供しているサービスは、次のうちどれですか。(○印はいくつでも)

- | | | |
|----|---|---|
| 1 | 産品・物品等の製造・製作及び提供 | |
| 2 | 資金の提供・援助 | |
| 3 | 活動に要する機材・資材・教材などの提供・援助 | |
| 4 | 事務所・会議室等の提供 | |
| 5 | 資料や情報の収集・提供 | |
| 6 | 親睦・交流の場・機会の提供 | |
| 7 | 人や労力を動員(派遣)してのサービス(例えば、清掃・美化、リサイクル、介護等) | |
| 8 | 調査・研究活動 | |
| 9 | 技術・技能・ノウハウ等の指導・伝達や人材育成 | |
| 10 | イベントやシンポジウム等の企画・開催 | |
| 11 | 機関誌・広報誌の発行 | |
| 12 | 本や雑誌などの出版 | |
| 13 | 相談活動(電話・窓口等) | |
| 14 | 団体・人材の紹介・仲介 | |
| 15 | 講師・スタッフ等の人材派遣 | |
| 16 | 施設等の設置や運営 | |
| 17 | 資格等の認定・推奨・評価 | |
| 18 | その他(具体的に |) |

問3 貴団体の活動している範囲(地域)は次のうちどれですか。(○印は1つ)

- | | | |
|---|-------------|---|
| 1 | 西東京市全域 | |
| 2 | 西東京市と近隣の市町村 | |
| 3 | 国内全域 | |
| 4 | 海外のみ | |
| 5 | 国内および海外 | |
| 6 | その他(具体的に |) |

問4 本市のホームページへ、貴団体の概要(1ページのF 1~6、F 9、2ページの問1、問1-1、問2、問3)を掲載することになった場合、掲載してもいいですか。

- | | | | |
|---|----|---|-----|
| 1 | はい | 2 | いいえ |
|---|----|---|-----|

組織運営についておたずねします。

問5 貴団体の主たる事務所(連絡先)はどのようになっていますか。(○印は1つ)

- | | | |
|---|---------------------------------|---|
| 1 | メンバーや会員の個人宅や勤務先等に事務局(連絡先)をおいている | |
| 2 | 団体(法人)専用の事務所(室)を借りている | |
| 3 | 団体(法人)専用の事務所(室)を自己所有している | |
| 4 | その他(具体的に |) |

問6 貴団体の事務局で組織運営や団体の事務に関する仕事に携わっているスタッフは何人いますか。常勤・非常勤別に、また有給者・無給者別にご記入下さい。(いない場合は0と記入)

常勤スタッフ：日常的に事務局業務に携わる人(週30時間程度以上を目安としてください)

非常勤スタッフ：それ以外の人

名称にかかわらず報酬や賃金を受けている場合はすべて有給スタッフとします。

海外に事務所があって、これと同じ状況であれば含めてください。

	有給者	無給者
常勤	人	人
非常勤	人	人

問7 貴団体での会員の募集は、どのような手段・方法で行っていますか。

(印はいくつでも)

- | | | |
|----|----------------------------------|---|
| 1 | くちこみ | |
| 2 | 新聞、雑誌等のマスメディアへ記事を掲載して | |
| 3 | 独自の機関紙やニュースレターを発行して | |
| 4 | 市の広報紙などに記事を掲載して | |
| 5 | シンポジウムやフォーラム、イベントを通じて | |
| 6 | インターネットのホームページを通じて | |
| 7 | チラシ、パンフレットの配布や回覧等を通じて | |
| 8 | 行政を通じて | |
| 9 | 社会福祉協議会(ボランティア・市民活動センター)の広報紙を通じて | |
| 10 | その他(具体的に |) |
| 11 | 特にしていない | |

問7-1 上記の会員の募集で最も効果的な手段・方法は何ですか。上記の中から該当する番号を1つだけご記入ください。

番号

地域社会との関わり等についておたずねします。

問8 貴団体では、これまでに国・東京都・西東京市・社会福祉協議会（「ボランティア・市民活動センター」＝社協）と関わりをもったことがありますか。各項目のあてはまる番号に 印をつけてください。

また、今後はどこに関わりたいですか。各項目のあてはまる番号に 印をつけてください。

	これまで						今 後		
	国・都		市		社 協		国・都	市	社協
	あ る	な い	あ る	な い	あ る	な い			
団体の発足時に支援してもらった	1	2	3	4	5	6	1	2	3
助成金などの補助もらった	1	2	3	4	5	6	1	2	3
物品などを支援してもらった	1	2	3	4	5	6	1	2	3
人材派遣や労力提供をもらった	1	2	3	4	5	6	1	2	3
相談や助言を受けた	1	2	3	4	5	6	1	2	3
政策などの提言をした	1	2	3	4	5	6	1	2	3
事業に対する評価や監視をした	1	2	3	4	5	6	1	2	3
協議や提案を行った	1	2	3	4	5	6	1	2	3
事業の委託を受けた	1	2	3	4	5	6	1	2	3
協働して事業を行なった	1	2	3	4	5	6	1	2	3
その他（具体的に)	1	2	3	4	5	6	1	2	3

問8 - 1 問8で「これまでに関わりがある」とお答えの方におたずねします。関わりがあった事例をお書きください。

問9 貴団体では、これまでに、次にあげる企業、商店街、地域の組織などに関わりをもったことがありますか。(印はいくつでも)

- | | | |
|---|--------------------|---|
| 1 | 社会福祉法人(特別養護老人ホーム等) | |
| 2 | 地元の企業 | |
| 3 | 地元の商店街 | |
| 4 | 町内会・自治会 | |
| 5 | 婦人会・老人クラブ | |
| 6 | 消防団 | |
| 7 | 学校・PTA | |
| 8 | その他(具体的に |) |
| 9 | もったことがない | |

問10 貴団体では、これまでの活動を通じて把握した住民ニーズはありますか。あれば具体的にお書きください。

--

問 11 貴団体が、様々な活動を行う上での課題や困っていることはありますか。

(印はいくつでも)

- | | |
|----|----------------------------------|
| 1 | 特定の個人に責任や作業が集中する |
| 2 | 活動の中心となるリーダーや後継者が育たない |
| 3 | 会員の高齢化や世代・男女の偏りがある |
| 4 | 会員が忙しく、活動の時間がなかなか取れない |
| 5 | 新しい会員がなかなか入ってこない |
| 6 | 会員がすぐに辞めていく |
| 7 | 活動に参加したい人の情報が得にくい |
| 8 | 他の団体の情報が得にくい |
| 9 | 活動を必要とする人や施設の情報が得にくい |
| 10 | 行政や民間による活動支援についての情報が得にくい |
| 11 | 活動資金が不足している |
| 12 | 活動に必要な機材等が不足している |
| 13 | 会合や活動場所の確保が難しい |
| 14 | 自分達の活動を広める方法がない |
| 15 | 活動に必要な専門的な知識や技術に不足している |
| 16 | 事務手続き（法務、税務、会計等）ができない |
| 17 | 活動や団体運営について外部の適当な相談者や相談機関がない |
| 18 | 外部からの問合せや連絡を受けるための決まった窓口（連絡先）がない |
| 19 | 行政に関する情報が得にくい |
| 20 | 法律、条例、制度、規制等の制約を受けている |
| 21 | その他（具体的に |
| 22 | 特にな |

問 11 - 1 問 11 でお答えになった中から主なものを3つまで選び、該当する番号と具体的な内容をお書きください。

番号	内 容

問 12 貴団体の運営や活動を発展させる上で、行政からどのような支援が必要だと思いますか。(印はいくつでも)

- | | |
|----|----------------------------------|
| 1 | 活動や情報交換の拠点となる場所の確保・整備 |
| 2 | 活動に対する資金援助 |
| 3 | 活動に必要な備品や器材の提供 |
| 4 | 行政に関する情報の提供 |
| 5 | 市民や企業等において活動への理解と参加を促すための広報・普及活動 |
| 6 | 市民や企業等が活動に関して情報が得られる仕組みの整備 |
| 7 | 活動への評価・表彰制度の創設・拡充 |
| 8 | 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助 |
| 9 | 活動メンバーの能力向上のための研修 |
| 10 | 事務手続き(法務、税務、会計等)の専門的な研修 |
| 11 | 市民が活動を体験できる場や機会の提供 |
| 12 | その他(具体的に) |
| 13 | 特にない |

問 12 - 1 問 12 でお答えになった中から主なものを3つまで選び、該当する番号と具体的な内容をお書きください。

番号	内 容

問 13 貴団体では、行政からの委託事業として、一定の予算枠のある企画コンペのような制度があったら、参加する意思はありますか。

- | | | | |
|---|----|---|----|
| 1 | ある | 2 | ない |
|---|----|---|----|

問 14 ボランティア・市民活動センターを知っていますか。(印は1つ)

1 知っている

2 知らない

問 14 - 1 知っている場合、利用したことがありますか。(印は1つ)

1 利用したことがある

2 利用したことがない

問 14 - 2 利用したことがある場合、どのような内容で利用しましたか。

問 15 ボランティア・市民活動センターに期待することがございましたら、お書きください。

最後に、市へのご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。同封の封筒にて7月1日(火)までにご投函ください。